

○ 兵庫県におけるコブヤハズカミキリの分布

コブヤハズカミキリ類 (*Parechthistatus*, *Mesechthistatus*) は後翅が退化萎縮して全く飛翔ができず移動能力の制限をうけることから隔離によって起る分化の問題を考える上によい材料として色々検討され有益な論文が発表されている。兵庫県下には僅か2種が分布していることが知られているだけであったが最近1新亜種の記載もあり、また従来知られていた2種の内の1種の分布は大変疑わしい点もあったりする。今迄の記録の検討とあわせて現時点での分布を眺めて見たいと思う。

Mesechthistatus furciferus Bates, 1884 マヤサンコブヤハズカミキリ

Echthistatus furciferus としてBatesが1884年記載している (Journ. Linn. Soc. London Zool. XV, p. 237)。原記載はHiogo on Maigasan となっている勿論摩耶山のことである。E. gibber (Bates) に似るとあり、♂で記載されている。このタイプ標本の写真は大林氏によって紹介されている(1961)。松下博士がgibberを本種と同定したことから間違っ取扱われていた時期がある。ところが原記載が神戸産でされている本種がはたして現在兵庫県下に分布しているのかどうかという事になると大変疑問に思っている。しかしながらこの学名でもって県下に記録されているのが相当ある。それ等の標本を一々見られないので何んとも云えないが一応記録だけを拾って見ることにする。

神戸市摩耶山、六甲山。関氏によって1935, 1941年に記録されている。共に属名はEchthistatusを使用始めの報文には和名がついてないが後の報文にはクロコブヤハズカミキリの和名がついている。共にgibberの方も同時に記録しているのでそれぞれ違った種として認めた上で記録してあると思われるが後の報文でgibberにマヤサンコブヤハズカミキリ(新称)として与えている従ってこれ等2種の分類が現在の取扱と全じであるかどうかは一寸疑問である。

氷上郡篠ヶ峯, 1 ex., 23-VII-1959, 青垣町小倉, 1 ex., 5-VIII-1960は山本、高橋両氏によってヒメコブヤハズカミキリ(属名*Parechthistatus*)として報告されている(1961, 1962)。篠ヶ峯産のものは林博士同定となっている。

城崎郡三川山, 1 ex., 18-VI-1973, 高橋 匡氏の報告であり学名もこのまゝであるし和名もマヤサンコブヤハズカミキリとなっている。

美方郡扇ノ山は多田, 辻氏の報文(1960, 属名*Parechthistatus*, ヒメコブヤハズカミキ

リ)、辻氏(1961, *Mesechthistatus meridionalis* Hayashi ミヤマコブヤハズカミキリとして記録)。辻、岸田氏の報文(1972, 種名のみ)、さらに辻氏は写真でもって扇ノ山産(1♂, 18-VI-1961)を紹介しておられる(1972)。

筆者が氷の山から *M. furciferus meridionalis* Hayashi ミヤマコブヤハズカミキリとして報告したものは(1964) いづれも同定間違で後述のダイセンコブヤハズカミキリに当ると思われるので取消しておく。

以上が本種についての兵庫県下からの記録の総てである。始めに記した様に標本を全く見られないので何んとも云えないが。現在の知見で本種であると言う兵庫県産の標本は残念ながら見たこともないし、採集の経験もない。

Parechthistatus gibber gibber (Bates, 1873) ヒメコブヤハズカミキリ

Batesにより1873年 *Echthistatus gibber* として Maiyasan and Kawatchi, in September. ♂♀ で記載されている。原記載に使用されたタイプ標本の写真は大林氏により紹介されている(1961)。大林氏によると林博士が1955年の原色昆虫図鑑, 上, 甲虫編に図示された、*P. furciferus* (p. 55, pl 20, f. 255)がこの種に該当するとある。従ってこの図鑑で同定した *P. furciferus* は本種になるので前に紹介した県下から *P. furciferus* の名で記録されている種は本種になる恐れがあると考えられる。

では一応兵庫県下から記録されている地点を全部拾って見る。

洲本市先山からは水沼氏が1♀を写真をつけて記録しておられる(3-V-1969, 水沼, 1970)。写真から見て基本型である。同じ地点では金田氏(1978)の記録があり、鮎屋からも記録がある(登日, 1979)。川西市横地(仲田, 1978)。神戸市六甲山(1♀, 25-V-1960, 筆者採集。この標本は三宅氏によって図示されている。標本も三宅氏保管, 1980)。武田氏は六甲山の標本を図示されているがデータが無い(1978), 摩耶山(1♀, 27-V-1953, 筆者採集。この標本も三宅氏の所に保管されていて、同氏によって図示されている, 1980)。

神崎郡大河内町川上〔1♀, 22-VI-1976, K. Kuramoto leg., 2♂♂, 3♀♀, 22-VI-1976, K. Fujiwara leg.〕。この記録は倉本氏より私信で教えて頂いたもので標本が見られないので基本型なのかダイセンコブヤハズカミキリに属するものなのかかわからない。

相生市三濃山(1♀, 8-VI-1974)。

以下にのべる産地のものが基本型なのかダイセンコブヤハズカミキリに入るべきものなのか標本が見られないので何んとも云いがたいが一応産地を記しておく。筆者の所有している宍粟郡音水、坂の谷、養父郡氷の山産のものはダイセンコブヤハズカミキリに該当すると思われるのでその産地からし

て以下の種はその大部分がダイセンコブヤハズカミキリになるのではないかと考えられる。

多紀郡篠山町小金岳、丹南町竜蔵寺(辻, 1964)。水上郡神楽(山本, 1958)。出石郡伊東町小谷(高橋, 1963)(但しこの種は *Mesechthistatus binodosus* Waterhouse コブヤハズカミキリとして記録されている)。宍粟郡赤西、音水(黒田, 1972)。養父郡氷の山(辻, 1962, 遊磨, 1972)。美方郡扇の山(奥谷, 1954)。

Parechthistatus gibber daisen Miyake et Tsuji, 1980

ダイセンコブヤハズカミキリ

本亜種は1980年に伯耆大山、美方郡扇の山、養父郡氷の山、多紀郡篠山産をタイプにして命名されたものである。小島、林西博士が図説(1969)された氷の山産♂(Ⅶ-1957)もこの亜種になる。

筆者が所有している次の標本はやはりこの亜種になると思われる。

宍粟郡音水(1♂, 24-Ⅶ-1973, 1♀, 10-Ⅷ-1975), 坂の谷(1♀, 9-Ⅶ-1973, 1♂, 22-Ⅶ-1979)。養父郡氷の山(1♂, 12-Ⅶ-1954, 2♂♂, 25-Ⅶ-1955)。岡氏が図示された宍粟郡音水産1♀(24-V-1976)もこの亜種と思われる(1977)。

多紀郡にいたるのも本亜種であるから神崎郡の産のものはこの亜種に入るのではないだろうか、たゞ相生市三濃山の1♀は明らかに基本型に入るとされる。

兵庫県下にこの両亜種がどの様に分布しているか十分な標本が手許になくまた今迄の記録の標本が見られない現在ははっきりとはしないが海岸線ぞいに基本型がいて中央部から北にこの亜種が分布しているように思われる。

○ ヒラタハネカクシ神戸市内で採集

1981年4月8日、春まだ浅き市内鳥原貯水池畔で樹皮を剥がして虫を探して見た所ヒラタハネカクシ *Siagonium vittatum* Fauvel を 1 ex. 見出した。特徴のある平べったくて上翅の両側に赤褐色の縦帯があり、頭は前部中央に1対の水平で八字状に前向き角状突起があるので間違いないと思われる。調べて見たら兵庫県下からの記録が見当たらない。こんな所にいるのにやはり不注意だったと考えさせられた。この属のハネカクシは他にホソヒラタハネカクシ *S. gracile*、宍粟郡音水(1 ex., 21-V-1972, Y. Hayashi det.) が県下から知られているだけである。またやゝ似ているオオヒラタハネカクシ *Piestoneus lewisi* Sharp の方は養父郡氷の山、宍粟郡音水の記録があるし筆者自身赤西で 1 ex. 採集している(21-V-1979)。

また同日同じく樹皮下からノコギリホソカタムシ *Endophloeus serratus* Sharp を 2 exs 得た。この種は川辺郡猪名川町槻並で薪から得たことがあるが(1 ex., 2-Ⅶ-1978)。県下

での記録は仲田氏の川西市見野、笹部の他に扇の山での記録がある位である。6月6日には地上を歩行中のゴモクムシダマシ *Blindus japonicus* (Seidlitz), 1♀を鳥原で採集したこの種も調べて見たら県下での記録が見当たらない。

○ 赤西・音水溪谷のオサムシ

1981年4月12日小倉 滋氏は赤西溪谷で朽木を割って越冬中のクロナガオサムシ *Carabus procerulus* 3♂♂, 1♀, ホソアオクロナガオサムシ *Apotomopterus porrectico-llis kansaiensis* 2♂♂, 2♀♀ を採集されて持参頂いた(同行の高橋久夫氏の御話によると一本の朽ち木を割って30頭近くが出て来た由。材の両側から出て真中にはいなかったとのこと)。

筆者の場合この赤西、音水地域での冬季オサ掘りを実施したこともなく夏季の採集もトラップなどの調査も時間的に出来ていなく、自然の状態の採集も余り地上歩行性のものについて注意していなかっただけにほとんどオサムシと云うものゝ採集が出来ていない。ところが記録の方もほとんど無い様なのでこの地域でのオサムシ類の状況はどうなのか全くわからないのが現状だと思っている。

比較的近い千種町千草〜岩野辺あたりでの冬季採集の記録はあるがこの地点とやゝ離れている。

小倉氏にわざわざもって来ていたゞいたのでこれ等を含めて音水、赤西でのオサムシ類のわかっている状況を記録しておきたい。一応この地域にいるオサムシ類としてはホソアオクロナガオサムシ、オオオサムシ *Carabus dehaanii*, マヤサンオサムシ *C. insulicola maiyasanus*, クロナガオサムシ、マイマイカブリ *Damaster blaptoides* の5種は間違いなくいるがヤコンオサムシの方は記録が無い。5種の状況を簡単に記しておく。

ホソアオクロナガオサムシは今手許に標本は無いが音水で歩行中のものを筆者自身採集している。従って赤西、音水ともこの種はいるようである。

オオオサムシは音水の河原で筆者が採集している(1♂, 11-VI-1972)。これ以外の記録が全く無いが恐らく注意が足りないのだろうと思う。

マヤサンオサムシの方は原での記録があり(1♂, 14-VII-1953, Matsui leg., 近畿, 1979), 筆者自身音水で1♀を採集している(25-VI-1972)。

クロナガオサムシは今回始めてこの地域で記録出来たものである。赤西産の♂は大変細形である。この種は山地性のものは細形になるとのことであるが神戸の藍那とか山の街産のクロナガオサムシも細形であり赤西産とも余り変りはない。♀はやゝづんぐりしている。

マイマイカブリも音水で筆者が採集しているだけである(1♂, 13-V-1973)。もっと広いような気がするのだが――。

以上大雑把に述べたが案外この地域でのオサムシ類と云うのは良くわかっていないと云うのが実状

である(1981年7月17日 引原川をはさんで東南にあたる波賀町水谷で道路上を歩行中のヤコンオサムシ1匹を採集することが出来た)。(5-Ⅸ-1981)

県 関 係 文 献 紹 介

- crude, № 21. B5, 22p. (大阪昆虫同好会機関誌), Dec. 1980.

会名が大阪昆虫同好会になっているが本部は尼崎市であるし、内容も北摂の昆虫関係並びに県関係の報文も結構多く発表される。

- 大阪昆虫同好会「北摂の昆虫(1)蝶類」B5, 80p. Jan. 1981.

前記大阪昆虫同好会の方々を中心に69名の方の協力によってまとめられたもので北摂であるから兵庫県に所属する地域も勿論ふくまれている。従って県関係の蝶に関する文献としては重要である。県関係の地域での蝶は78種の記録と2種の偶産蝶を報告されている。

- 小倉 滋. 三木のカミキリムシ. 三木市自然研究同好会, April, 1981, B5, 28p.

小倉氏が一々タイプを打たれ写真も入れて全部をゼロックスされたもので主として志染中学校の教材に利用されたようである。三木市産83種のカミキリムシに就いての解説であるが14と78, 37と81は共にダブっているので実際には81種である。38のトガリシロオビサビカミキリの学名は違っている。これだけ苦勞してまとめられたのであるから採集データが全部とまでなくとも入れて頂きたかった。作成の御苦勞に敬意を表する。

- 加藤昌宏・武衛晴雄. 神戸の蝶(神戸の自然 8).

神戸市立教育研究所刊, A5, 121p. 1981-6月.

本書の出版は早くから小林桂助氏から教えて頂いていたので待っていた。立派な本である。神戸に産する蝶84種に偶産種9種をカラーで図説。蝶の生態観察例とか飼育法なども説明されている。たゞ印象としては図鑑的で(図鑑であれば他にも多くあるので——)。神戸の蝶の特徴的な傾向の表現を出してほしかったと同時に神戸の蝶の歴史の変遷も紹介してほしかった。また種々都合あったと思われるが図示された蝶のデータがほしい。文中のデータももう少々具体的の方が良いと思われる。